

ORANGE

かな おか

金岡たかひろ

Takahiro Kanaoka News

議会活動報告書



発行にあたり

この度、議会活動報告書 ORANGE を発行させていただきました。

太陽や南国を思わせる ORANGE ~オレンジ~は楽しさの象徴であり、また、親しみやすさや気軽さを現します。

この議会活動報告書を通して、市民の皆様には議会活動に親しみを持ってもらい、困りごとや相談事など気軽にお声がけしていただければと思います。そして明るい気持ちで楽しい市民生活を送っていただけることを願います。

議会レポート

2021年6月議会一般質問



◀動画

Q コロナ対応に関連して、学校行事の計画は？

A 中学校の修学旅行は行き先や宿泊の有無を再検討し、全校で2学期以降に行う方向。
「14歳の挑戦」は市関連施設では中止で、その他は事業者の協力体制も踏まえ各校が判断する。(教育委員会事務局長)



Q 市内の小中学校でコロナを原因とする偏見・差別・いじめなどの発生状況は？

A 富山市教育委員会として、そうした報告は受けていない。(教育委員会事務局長)

2021年9月議会一般質問



◀動画

Q 病院事業に関する市長の見解は？

A 市民病院は地域の急性期医療を担い、災害拠点としても重要だ。市の施策全体とのバランスを図りながら、必要な予算を確保する。(藤井市長)

Q 病院の経営安定を図るため、総務省の基準に沿って予算要求額を増やすべきではないか？

A 総務省通知を踏まえながら、実情に合った所要額の見積もりに向け、医療ニーズにしっかり応えていける予算をもとに、健全な経営に一層取り組みたい。(病院事業局管理部長)



富山市民病院は平成28年度から平成30年度まで経常赤字が続いています。どうして赤字が続いているのでしょうか？患者が少ないのか？働いている医療関係者の給与が高いのでしょうか？現場の方たちは富山市民病院事業中長期計画・経営改善計画に沿って一所懸命に経営改善に取り組みながら、日々厳しい医療現場に立ち向かっています。では、なぜ赤字になっているのか。

そもそも地方公営企業は独立採算が基本ですが、公立病院は、地域における医療の砦として民間病院が手を出さない不採算の医療も提供していかなくてはなりません。これらの受益者負担の原則になじまない経費については、国の繰出し基準の考え方として、総務省が地方自治体に対して毎年、通知を出しています。総務省の繰出し基準に沿って繰出しを行ったときは、その一部について地方交付税等において考慮することになっています。

今回の質問では、具体的な項目をあげて、総務省の繰出し基準に沿った予算要求をそもそもしていないのではないか、していれば赤字にはなっていないのではないかということを指摘させていただきました。

地域活動紹介

14 地区 スポーツ推進 委員研修会

コロナ禍で大会を開催できませんが、個々人のスキルアップに努めています。



神通川流域治水を 考えるワークショップ

気候変動により増大化する水災害リスクを軽減するために、行政、企業、住民等で、ハード・ソフト対策について4回にわたり検討しました。



婦中町体育協会 フォトウォーキング 大会

コロナ禍ではじめての試み。執行部もコスプレをして、婦中町を盛り上げるために頑張っています。



春の 交通安全運動

富山西交通安全協会鶴坂支部の方々と一緒に交通安全運動に参加しました。



議員の活動紹介

令和3年度富山県国民保護共同実動・図上訓練



内閣官房、消防庁、富山県富山市の主催で行われ23機関、図上訓練約150人、実動訓練約200人が参加しました。

富山国際大学のシトラスリボン運動



地域コミュニティを考える

緑色や黄色のジャケット、帽子をかぶって交差点などで立って子どもたちに声をかける人たち。地域によって見守り隊も地域の子もたちが安全に安心して登下校できるように見守ってくれている。これらの姿はいつから見られたらだろうか。

平成13年の池田小事件をきっかけに、全国的に保護者や地域のボランティアによる見守りが行われるようになり、富山市内でも平成17～18年頃から活動を始めている地域が多かった。

いつからか、知らない人に会っても挨拶はしない、声をかけられないようにしようという時代になった。コミュニティが希薄化して、顔が見えない距離になってしまったのだろう。

そんな中で、児童クラブが危機に瀕しているという声を耳にした。

ここでいう児童クラブは学校が終わって子どもたちを預かる場所ではなく、町内会の公民館でクリスマス会を開催したり、婦中町で育った方なら、婦中っ子祭りを思い出してもらえたらと思う。

児童クラブは町内会単位の単位クラブがあり、その上に校区、支部（婦中、八尾、大沢野…）、富山市児童クラブ連絡協議会、富山県児童クラブ連合会と続いていく。市町村合併前までは、各支部の事務などを各行政センターで代行してもらっていたのが、合併から一定期間を置き、代行してもらえなくなった。その結果、各支部で子どもたちの成長のことを考えて行事などを計画してきたのが、今は、各支部長が事務に追われて新規事業を考えるにも考えられない状況になってしまった。各単位クラブにおいても、行政が事務をやっていた時代ならいつでも相談できたのが、各支部長が仕事の合間にやらざるをえないので、なかなか相談もできなくなった。そんな中、地域で子どもを育てることの重要性、子どもたちが大きくなった時に地元に戻りたくなる、住みたくなる、そんな街をつくるためにも、児童クラブを存続できるよう取り組んでいきたいと思う。

かな おか

金岡たかひろ

プロフィール

1981年3月2日 富山市生まれ
鶴坂小学校
富山大学教育学部附属中学校
富山中部高校
新潟大学教育人間科学部 卒業

2006年 富山国際学園
地域と学校との連携で地域課題を
解決する地(知)の拠点事業推進室

2021年
4月より富山市議会議員初当選

2004年 北陸銀行

主な活動

- 2012年 富山市スポーツ推進委員
(～現在に至る、
2014・2015主任)
- 2013年 鶴坂児童クラブ連合会会長
(婦中地区児童クラブ副会長)
- 2018年 婦中町体育協会
(現在理事長)

メッセージ

昨年の4月に市議会議員としてスタートし、もうすぐ1年が経とうとしています。議員の仕事として、定例会で質問することが大切なことだと思っています。
みなさんの困りごとや悩みごとをしっかりと代弁してまいります。ぜひとも皆さんの声を私にお聞かせください。

金岡たかひろ後援会

TEL 090-7080-1934

Facebook



Instagram



討議資料

日頃の情報はこちらから